始動！地方創生プロジェクト②

～地域資源の有効活用を目指して～

馬を活用した体験型農場の可能性調査

広報しゃこたん9月号で紹介した『積丹の気候風土を生かした「スピリッツ（蒸留酒）開発」によるしごと創生事業』は、大きく3つの柱で構成しています。

今回は、「体験型農場等整備」の可能性を探る取組を紹介します。

▶美国小学校

◀日司小学校

▶余別小学校

馬が耕す

道産馬「どさんこ」を含む馬5頭が放牧された遊休農地・旧積丹牧場では、馬が荒れた農地の雑草を食べ、ひづめで耕しながら、圃場としてよみがえらせる試験を行っています。

10月7日には、一部の耕地を利用して、ジンの製造過程に不可欠な植物や苗木の試験植栽を始めました。ジンの主原料となる実を採取するためのセイヨウネズやミヤマビャクシン、香りの高いキハダやウワミズザクラなどのハーブ類を町内に自生する50種類もの植物の中から、このプロジェクトを支える専門家たちが選定したものです。

馬と親しむ

一方、町民の皆さんにこのプロジェクトへの理解を深めていただくための取組も行っています。

10月11日から13日にかけて、町内各小学校の児童を対象に、馬とのふれあい教室が行われました。

七飯町の体験型観光牧場どさんこミュゼ㈱で調教された2頭の「どさんこ馬」に子どもたちは、馬と親しむ3つの知識『餌をやる』、『ブラシをかける』、『散歩する』の手順で馬と対面し、最後に初めての『乗馬』を体験しました。子どもたちは、『もう一度乗りたい！』を繰り返し、時間を忘れて馬とのふれあいを楽しみました。

▲ホースセラピー見学会

馬が癒やしてくれる

10月13日には、**社会福祉法人古平福祉会（木村輔宏理事長）**の協力のもと、「ホースセラピー見学会」が行われました。

「ホースセラピー」は、その効果が身体と心の両方を癒やす効果があることが特徴で、ドイツやアメリカではすでに医療の分野で活用されています。

古平福祉会の施設利用者8名の中には、馬を怖がっている方もいましたが、すぐに自ら馬に触れ、最後にはすっかり笑顔で接するようになり、馬との別れを惜しむなど癒やしの効果が現ていました。

馬が見せてくれる

10月16日には、「美国小泊馬車の旅」として美国町内を周遊する馬車が運行され、町内外の親子連れ60人が馬車の小さな旅を楽しみました。

馬車を引く馬は、体重８００kgを超える白馬のばん馬。

馬車は美国漁港広場を出発し、小泊海岸から国道を通り、鰊伝習館ヤマシメ番屋まで約20分かけて周遊しました。

初めて馬車に乗る人が多く、馬の大きさと力強さ、ひづめの音に歓声が上がり、悠然と進む馬車に揺られながら、人の目線と違う美国町内の景色を観光気分で楽しんでいました。

またこの日は、鰊伝習館ヤマシメ番屋も臨時営業し、岩のりおにぎりと三平汁を提供したほか、番屋内では、昔使用されていた馬具の展示、木工クラフト、子ヤギとのふれあいが行われ、親子連れや子どもたちでにぎわいました。

▲美国小泊馬車の旅

▲馬車の中での様子

体験型農場としての可能性

町では、これらの試験的な取組を通じ、旧積丹牧場の今後の活用方法の可能性について検討を行っていきます。

そして、このプロジェクトを一つの例として、町内の未利用・低利用の多様な地域資源の利活用を探る取組を進めていきます。

議員・町内産業経済団体の意見交換会

町では、10月4日に議員懇談会を開催し、全議員が出席。また、18日には、町内産業経済６団体の代表者等10名が出席し、産業まちづくり懇話会が開かれ、この『地方創生プロジェクト事業』の進捗状況についての説明と意見交換を行いました。

議員懇談会には、「積丹ＧＩＮ」の発案者でアドバイザーとして参画いただいている、木工デザイナー煙山泰子氏とプロジェクト推進受託者の㈱ＧＢ産業化設計代表取締役岩井宏文氏が参加しました。

煙山氏自身が積丹町内で採取した木の実や小型蒸留器を実際に展示しながら、これまでの調査で明らかになった町内の自生植物やジン製造の課題とその方策案の検討状況、地域活性化への効果などの説明に、参加した議会議員や町内産業経済団体からは、大きな期待と関心が寄せられていました。

この事業は、こうした多くの「積丹ファン・積丹応援団」の皆さんの参画と協力を得て、その可能性を模索しながら少しずつ前進しています。

▲議員との懇談会